



寺子屋修養道場に参加した子どもたちと青年会のスタッフ

# 新編

復刊第九号  
2010年 8月  
身延別院発行  
〒103-0001  
東京都中央区  
日本橋小伝馬町3-2  
Tel 03-3661-3996  
Fax 03-3663-2766

## 寺子屋修養道場

### 感謝の心を学ぶ

ありがとうの心を学んだよ！ 身延別院青年会のメンバーが八月七、八日の一泊二日の日程で、「寺子屋修養道場」を開きました。檀信徒の子どもさん、お孫さんなど十一人が元気に参加し、夏休みの思い出の一ページを刻みました。

「寺子屋修養道場」は、青年会が子育て支援を中心に活動していることから、副住職が中心となって、初めて企画されました。子どもさん、お孫さんが家から離れ、お寺で生活することで、人や命に対する感謝の気持ち、「ありがとうの心」を養ってもらうことが目的です。一日目の午前十時半から、保護者も参加して開会式が行われました。日程説明、法話の後、子どもたちは日本橋本町の和紙のお店に移動、紙漉きを体験しました。お寺に戻ってからは本堂で写仏に取り組みました。夕食後には浅草橋の銭湯に行き、みんなで熱い湯船につかりました。お寺に戻り、就寝前にはビンゴ大会も行われ、楽しい一日を締めくくりました。

二日目は午前五時半に起床。朝のお勤めとして、お自我偈とお題目を唱えました。朝食前の掃除の時間には、みんなで手分けをして本堂、廊下、境内の清掃にも取り組みました。朝食後にはスタッフがお弁当づくり。皇居・北の丸公園内の科学技術館を見学した後に、お弁当をいただきました。

この「寺子屋修養道場」、青年会として初めての試みだっただけに、細心の注意を払って子どもたちと接してきました。終わってみると、子どもたちにとっても、青年会のスタッフにとっても、あつという間の二日間で、有意義な時間を過ごすことができましたよつです。

(4ページに写真特集があります)(平山)



日蓮聖人が立ち寄ったと言われる見法寺本堂

## 御首題を いただく旅

第九回 山梨県北杜市・見法寺

### 三日三夜説法の霊跡

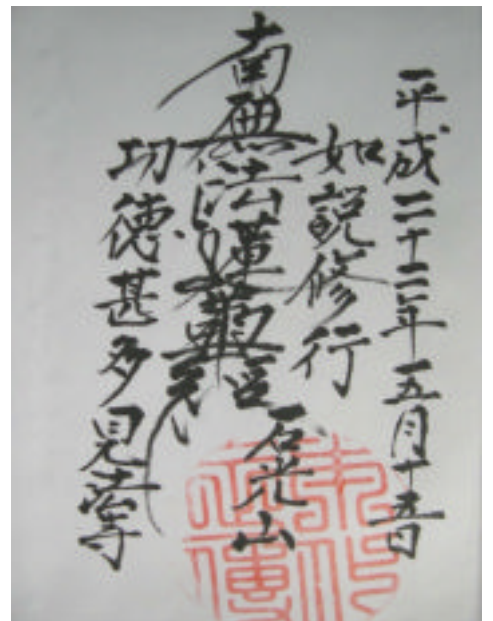
山梨県のお寺と言えば、真っ先に思い浮かぶのは、日蓮宗の総本山・身延山久遠寺ですね。文永十一年(一二七四年)五月から弘安五年(一二八二年)九月まで、八年にわたって過ごされた場所であることは言うまでもありません。

ところで日蓮聖人は身延山に入られる前に、一か月にわたって甲斐国内を布教に歩いたと伝えられています。そのため、山梨県内には日蓮聖人が説法をされたとか、袈裟を脱いでお休みになったとか、そういう伝説の残っているお寺がいくつもあります。

私は身延別院にお邪魔して、全国の日蓮宗のお寺と歴史が掲載されている本を見せてもらっています。そして「宗祖(日蓮聖人)がお立ち寄りになった」というお寺を見つけると、メモにとっておき、参拝の計画を立てるのです。

今回、ご紹介する見法寺もそういう伝説が残るお寺です。日蓮聖人は文永十一年五月下旬に日野春村を訪れた際、清水の湧く井戸を見つけ、お休みになられました。家主が歓迎したところ、聖人は三日三夜にわたってこの地で説法をされました。後に、身延四世・大法阿闍梨日善上人が宗祖のご遺徳をしのび、興国二年(一三四一年)三月、この地にお寺を建てました。それが、この石光山見法寺というわけです。

私は今年五月に見法寺を訪ねるにあたって、



事前にお寺へお電話を入れました。参拝の日時を伝えておこうと思ったからです。ところがお寺に電話を入れると、ご高齢と思われる女性が応対に出て、「おたくさんは、どちらのだれさんですか」と言ったきり、すぐに切ってしまいました。勇気を出して、もう一度お電話を入れましたが、やはり、同じ対応でした。私はすっかり困ってしまいました。

参拝当日、最初に訪ねた日蓮宗の別のお寺で、「見法寺さんに電話を入れましたが二度切られました」とご住職に話すと、「それは見法寺の先代住職の電話番号で、奥様が対応したのでしょうか。見法寺の住職には私から連絡してあげましょう」と言ってくださったのでした。助かりました。見法寺のご住職にも、とても親切にしてください、昼食までごちそうになったのでした。

(平山徹・新聞記者)

# たくましくなった子どもさんたち 寺子屋修養道場

八月七、八日に一泊二日の日程で行われた「寺子屋修養道場」には十一人の子どもさんが参加しました。最年少は幼稚園生の龍憲吾君(三歳)、最年長は小学六年生の酒井亮太郎君(十二歳)、船田恵佑君(同)でした。最近では年齢の違う子どもたちが集まって、何かに取り組む機会はいへん少なくなっています。それだけに、みんなで協力し合っ

て、掃除をしたり、お弁当をつくったりという体験はとても有意義なものとなりました。和紙の店「小津和紙」で取り組んだ紙漉き体験もとても貴重な機会です。家族で温泉に出かけたことのある子どもさんはおられても、子どもたち同士みんなで銭湯の湯船につかるというのは初めての体験だったようです。湯船のお湯が高めで、なかなか入れなかつた子どもさんもあり

うです。朝五時半に起きるといのは、ちょっとぴりつらかつたかもしれませんが、すぐに慣れてしまつところの子どもたちの素晴らしいところ。大きな声でお題目を唱えることができました。一泊二日という短い時間でしたが、それでも、閉会式のときの子どもさんたちはたくましくなつたように見えました。



本堂でみんなで朝のお勤め



小津和紙で説明を聞く子どもたち



興味深い内容がたぐさんだつた科学技術館(上)閉会式で副住職から修了証を受け取る子どもたち(左)

# 富士山経ヶ岳を団体参拝



経ヶ岳を参拝した皆さん

常唱殿でお題目

身延別院の檀信徒の一行が七月五日、富士山経ヶ岳を参拝しました。参加したのは藤井副住職、河野上人はじめ檀信徒の皆さん四人です。一行は午前八時に乗用車で当院を出発。午前十一時過ぎには富士山の中腹、五合五勺目にある富士山経ヶ岳に到着しました。

経ヶ岳は文永六年(一二六九年)の夏、日蓮聖人が法華経による天下泰平・国土安穩を願い、自ら書写された法華経を埋経された場所です。現在の山梨県富士吉田市に住んでいた塩谷平内左衛門の案内で、この地まで登ったと伝えられています。「宗祖埋経霊場」とも呼ばれています。



常唱殿で行われた法要

昭和二十八年(一九五三年)には、身延別院の初代住職、藤井日静上人が、富士山麓電鉄(現在の富士急行)社長堀内一雄氏と浄財を募り、常唱殿を建立、霊跡復興に努めました。その後、長らく身延別院が管理をしてきました。平成十七年(二〇〇五年)からは、身延山の主催で、富士山経ヶ岳大祭、立正安国、世界平和祈願法要が営まれており、身延別院の一行もこの法要に合わせて参拝したものです。

一行は、身延山の布教部長、布教部の各上人、僧道実修生、布教研修所の研修生と共に常唱殿で自我偈やお題目を唱えました。その後、登山道から離れた林中に移動し、日蓮聖人が天下泰平を祈念した窟(いわや)と伝えられる「姥ヶ懐(うばがふところ)」を参拝しました。



姥ヶ懐を参拝

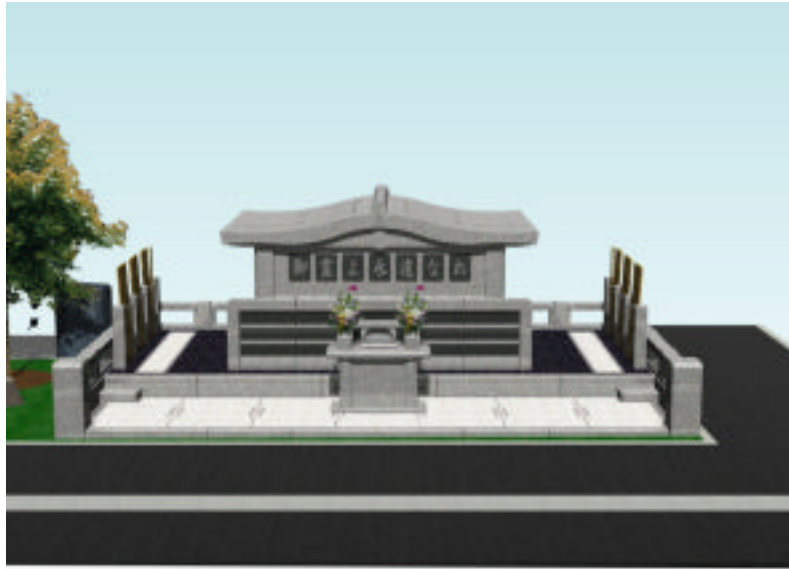


登山道で一休み



法要を終えて

## 寺の動き



永代供養墓の完成予想図

## 建設進む永代供養墓

身延別院が総武霊園内に開設する永代供養墓の建設が順調に進んでいます。完成は今年九月彼岸です。永代供養墓は当霊園が責任を持って納骨し、永代に渡り管理、供養する墓所です。承継者がいなくても無縁になる心配がありません。

ん。すでに申し込みの受け付けを始めています。

永代使用料(供養料)など詳しくは、身延別院のホームページで紹介しています。身延別院または総武霊園へ直接、問い合わせさせていただいてももちろん結構です。

ホームページができました！

身延別院のホームページができました。URLは <http://minobu-betsuin.jp> です。

身延別院の縁起をはじめ、境内の案内、行事の案内、さらに総武霊園の案内なども掲載しています。とくに力を入れているのは、「日記」のコーナー。お寺の日々の出来事を、写真もふんだんに盛り込みながら、こまめに紹介していきます。

このホームページが、檀信徒の皆さんはもちろん、檀信徒でない人にも身延別院を知ってもらうきっかけになればと思っております。ぜひ一度ご覧になってください。「お気に入り」への登録もよろしく願います。

## 本堂で施餓鬼大法要

身延別院の盂蘭盆会施餓鬼大法要が、七月十六日午後一時から、本堂で厳かに営まれました。お盆(盂蘭盆会)の送り火の日に行っている恒例の行事です。

今年には檀信徒約六十人が本堂に集い、全員で

提婆達多品、お自我偈、お題目などを唱え、ご先祖をはじめ、有無両縁の諸精霊を供養しました。

## 短冊に願いこめて

身延別院で七月七日、七夕祈願を行いました。地域の皆さんにお寺に親しんでもらおうと、平成十八年(二〇〇六年)から始めた行事です。今年は七月五日に本堂前に笹竹が設置されました。竹笹には「健やかに すくすくと伸びやかに育ちますように」「今年こそ良縁に恵まれますように」「家内安全」など、さまざまな願い事の書かれた短冊がたくさんつるされました。当日も、短冊に願い事を書いていく人の姿がみられました。



色とりどりの短冊が吊されました

## 広島・宮島団参の旅

身延別院では、十一月二十六日から二十八日まで二泊三日の予定で広島県広島市・宮島への団体参拝を企画しました。日蓮宗五十七本山の一つとして知られている広島市の国前寺を参拝します。国前寺は日蓮聖人の御遺命を受けた龍華樹院日像上人が当地に弘教し開山したお寺です。本堂と庫裏は、ともに国の重要文化財に指定されています。

広島市内では広島城、日本三景の一つ宮島、原爆ドーム、平和記念公園などを訪ねます。

費用は九万二千円程度(人数により変動する可能性があります)。締め切りは十一月月上旬となっております。どうぞ奮ってご参加下さいませ。すようご案内申し上げます。



国前寺の本堂

## お稚児さん募集

身延別院では、十一月三日に行われるお会式で、今年もお稚児さん行列を募集しています。行列に参加されるお稚児さんを募集します。お稚児さん行列は、檀信徒の皆さんをはじめ、地域の皆さんにもお会式に親しんでいただければと平成十九年(2007年)に復活させました。お題目と団扇太鼓の音に合わせて、小伝馬町界隈を八百メートルほど練り歩くもので、参加されるお稚児さんの数は毎年増え続けております。お稚児さんを囲んでの記念撮影も行われ、「とてもよい記念になった」と好評をいただいております。どうぞふるってご参加ください。

また、お会式で本堂の外に飾り付ける花の製作を十月十九、二十日に行います。都合のつく日、都合のつく時間帯だけでもかまいません。一時間でも、二時間でも、お手伝いいただける方、どうぞよろしく願います。

## 今年もべつたら市に出店 青年会

身延別院青年会では、十月十九、二十日、東京・日本橋本町の宝田恵比寿神社を中心に開かれる「べつたら市」に今年も参加します。べつたら市へは昨年初めて参加し、揚げたこ焼きの店を出しました。今年何の店にするかはメンバーで検討中です。檀信徒の皆さん、当日は是非お店を見に来て下さい。

## 今後の予定

- 九月一日(水) 願満祖師終日お開帳
- 二十日(月)～二十六日(日) 秋季彼岸会
- 二十六日(日) 彼岸会施餓鬼法要  
午後一時より
- 二十三日(木) 総武霊園・永代供養墓  
開眼入魂法要
- 十月一日(金) 願満祖師終日お開帳
- 十九日(火)、二十日(水)  
お会式花づくり、青年会べつたら市出店
- 十一月一日(月) 願満祖師終日お開帳
- 三日(水) 宗祖報恩会式

## 編集後記

願満第九号をお届けします。今回は、青年会が主催した寺子屋修養道場を大きく取り上げました。参加した子どもさんの中には、スタッフから厳しく叱られた子どもさんもいたそうです。それでも楽しくて、嬉しくて、スタッフについて行く子どもさんの姿が見られました。スタッフにとっても、初めての取り組みでしたが、子どもさんたちに喜ばれ、充実した時間を過ごすことができました。

次回の発行はお会式後を予定しております。

(平山)